

H29 年度 21 世紀金融行動原則 運営委員会(第 3 回) 議事要旨

日時: 平成 30 年 2 月 15 日(木) 15:00~17:00

場所: 三田共用会議所 第三特別会議室

開会

○事務局より配布資料の確認

- 運営委員会(第 3 回)議事次第
- 資料 1 今年度の活動について
- 資料 2-1 優良取組事例の表彰について
- 資料 2-2 最優良取組事例選定委員会設置要綱(案)
- 資料 2-3 最優良取組事例に対する環境大臣賞下付について(案)
- 資料 3-1 総会・テーマ別意見交換会について
- 資料 3-2 来年度予算案について
- 資料 4-1 署名金融機関の状況及び H29 年度会費徴収状況について
- 資料 4-2 WEB サイト新設について
- 資料 5 今後の運営について
- 参考資料 1 出席者一覧
- 参考資料 2 業務内容リスト(自走化反映)
- 参考資料 3 WEB サイト(案)

○竹ヶ原運営委員長より、開会挨拶

- 運営委員、座長及び参加者に対して挨拶とともに、今年度活動への協力要請。

○新しい運営委員の自己紹介

- 損害保険ジャパン日本興亜(株) 佐々木 美絵 様

1. 今年度の活動について

(1)今年度の活動について

○各 WG 座長より資料 1 に沿って説明

(運用・証券・投資銀行業務 WG)

- 今年度は、WG を 2 回開催。
- 第 1 回 WG は、「ESG 情報と企業価値」と題した意見交換会開催(11/30)。従来ならば企業からの「対話」だが、投資家側からの ESG 投資への視点を披露、ディスカッションを

行った。

- 第2回 WG は、「社会的共通資本と持続可能な社会・経済・環境」をテーマに開催 (1/31)。多くの参加者を得た。ESG を今の課題としのみではなく、宇沢 弘文 氏の思いを踏まえ、次世代へのメッセージとして開催できたことに意義があった。
- 来年度は、インベストメントチェーンにおける投資家、アセットオーナー、企業の能動的な結節点を引き続き軸として、より高度化を進める活動を実施予定。

(保険業務 WG)

- 今年度は、WG を3回実施。第1回、2回は前委員会で報告。
- 第3回 WG は、UNEPFI 25周年ラウンドテーブルと共催で開催 (12/12)。「持続可能な保険原則 (PSI) マーケットイベント」と題し、多岐にわたるいくつかのテーマについてディスカッション。保険 WG 所属署名金融機関として、東京海上日動火災保険、MS&AD インシュランス、損害保険ジャパン日本興亜が参加。
- 次年度第1回 WG は、ジュネーブ協会が1月に発表したレポート、「気候変動と保険業界：リスクマネージャーと投資家の行動」の勉強会とディスカッションを予定 (構想段階)。
- 次年度の WG の費用面では、会場手配などを保険 WG 所属金融機関で回していきたい。

(預金・貸出・リース業務 WG)

- 今年度は、3回 WG を実施。
- 第1回は、リース業務主体の WG (10/6)。リース会社等の講演及びディスカッション。初めてリースをテーマに開催したが、非常に多くの参加者を得た。
- 第2回 WG は、UNEP FI 共催「環境・社会リスク分析：プロジェクト・ファイナンスと赤道原則、今後の展開とは？」(12/12)。
- 第3回 WG は、ホスト行である飯田信用金庫本店を会場に長野県飯田市で地方開催(1/26)。飯田市長、再エネ事業に取り組む地元企業、飯田信用金庫による講演とディスカッション。行政、事業会社、金融機関の連携がとれた良いモデルとなった。交通の便から集客に不安もあったが、参加人数を得ることができた。
- 来年度の方向性が未定だが、早めにホスト行を調整しての地方開催1回、東京1回の計2回の WG を予定。

(環境不動産 WG)

- 第1回 WG は、「持続可能な働き方へとつながるワークプレイスの変容」をテーマに開催 (11/29)。かなり多くの方に参加いただいた。
- 第2回 WG は、横浜銀行が取得した既存ビルの LEED 認証と取り組みを軸に2月26日開催予定。環境省、GBJ と共催・後援が多いが、金融機関からの参加希望が少ない。署名金融機関にも参加をご検討いただきたい。
- 来年度は、2回 WG の開催を想定。

- 第1回 WG は、不動産投資を開始しており、CalPERS（カリフォルニア州職員退職年金基金）と CalSTRS（カリフォルニア州教職員退職年金基金）とともに世界の ESG 不動産投資を牽引している GPIF との共催で、ESG 不動産投資にフォーカスした WG を開催したい。環境不動産 WG 単独では困難なので、皆様にご支援いただきたい。
- 第2回 WG は、多数の参加者を得た第2回運用 WG の社会的共通資本をテーマとした議論を形にするために重要な建物や街に焦点を当てる。持続可能な建物や街づくりの視点において、自動車の社会的費用、徒歩、バイク、自転車の使いやすい街づくり、アフォーダブル住宅、社会住宅への取り組みが日本は遅れている。いわゆるソーシャルエクイティを街にどう導入するかをテーマとしたい。

(持続可能な地域支援 WG)

- 第1回 WG は、前委員会で報告。
- 第2回 WG は、UNEP FI 25 周年記念ラウンドテーブルと共催 (12/12)。WG 座長が登壇。
- 第3回 WG は、2月22日に「今から学ぶ SDGs～金融機関にとってのビジネスチャンス！」と題した勉強会を開催予定。署名金融機関限定だが、反響が良く当日が楽しみ。

○運営委員長小括

- 第2回運用 WG (1/31) は、過去最大規模で盛り上がり、行動原則の PR に繋がったのではないかと。
- お手元には、運営委員限りとして WG 開催経費の資料を配布している。予算に計上されていない WG 開催経費は、自走化後の課題。次年度以降の運営の参考として意識していただきたい。

2. 優良取組事例の表彰について

○事務局より資料 2-1、2-2、2-3 に沿って説明

- (事務局：資料の補足) 優良取組事例 特別賞 (=運営委員長賞) に関しては、第1次審査により絞られた 11 事例ではなく、応募 28 事例すべてを対象に両運営委員長に選定をお願いしたい。

○運営委員長小括

- 環境大臣賞については、選定委員会に委ねることとして、特別賞については、両運営委員長にご一任いただくこととさせていただく。

3. 第7回定時総会・テーマ別意見交換会について

○資料 3-1 に沿って事務局から説明

(第7回定時総会 決議事項：運営委員の選任について)

○運営委員長小括

- 第5回定時総会で選任された運営委員機関の任期満了が近づき、第7回定時総会で選任するために、署名金融機関等に立候補を募った。現時点での運営委員機関の皆様には、引き続き協力をお願いする。現時点での9機関に加え、「りそな銀行」より立候補いただき、10機関を候補とする。

(テーマ別意見交換について)

○委員からの意見

- (委員長) 以前は、総会と同じ会場でパネルディスカッションや講演を行っていたが、昨年度より実務により近い形だと、テーマに分けた意見交換会を実施している。今年度もそのスタイルを踏襲。注目されている「②ESG投資テーブル (ESGテーブル)」は、一貫した統一テーマにて実施。もう1つの「①地方創生テーブル (地方創生テーブル)」は、テーマとしてエコアクション (EA) 21を想定。中堅・中小企業の環境マネジメントの見える化により、地域金融機関が事業性評価を行いながらお金を貸していけるかどうか。いわば、ESG投資の間接金融版を意識して事務局と相談して案を用意した。最終確定版ではないので、ご意見をいただきたい。
- 「地方創生テーブル」のテーマでは、率直に意見交換できる工夫が必要ではないか。「ESGテーブル」は、非常に関心の高い領域であり、特に企業の情報開示については様々な検討の場があると思うが、ESGを含む非財務情報と企業価値創造プロセスの示し方として、望ましい統合報告書のポイントを議論するなど、独自性を打ち出せるとより有用なテーブルになるのではないか。
- (事務局) 「地方創生テーブル」では、自由闊達な意見を出していただきたいため非公開 (=署名金融機関等のみ参加) として提案させていただいた。加えて、非公開でテーマをSDGsで開催予定の第3回地域支援WGが、地域金融機関を含む署名金融機関の参加申込が多くみられるので、それに倣ったところもある。
- (委員長) 逆に「ESGテーブル」を一般公開とした場合、署名金融機関が自由な発言をしにくくなったり、参加できなくなったりすることにはならないか。
- (事務局) 可能性はある。環境省からの報道発表を、署名金融機関を優先して受け付ける形で行いたい。
- 「地方創生テーブル」について。昨年度、地方開催の預貸リースWGのホスト行を経験した。地方創生と環境を結び付ける試みの中、地域金融機関の主な取り引き先となる中小企業にとってISOまでは難しいがEA21ならばと言う話もあった。環境と地方創生の親和性を実感した。見せ方を工夫すれば、環境面での地方創生のきっかけとして期待感が高い。
- 「ESGテーブル」、特に統合報告書関連は、地方銀行も着手しようとしているが苦勞している状況なので、自分にとっても関心がある。「地方創生テーブル」については、正直難しいように感じる。静岡銀行での預貸リースWGでは、その地方で、参加した自治体も含め具体的に関わっている方々にご発言くださった故にうまくいった事例。発言できる

人をどれだけ集めることができるか次第。後藤 敏彦 氏をご参加くださるのであれば、EA21 だけでなく、別のテーマも話していただければどうか。

- (委員長) 昨年度の地方開催 WG では、ホスト行をご登壇いただく事業会社を厳選。ホスト行との深い対話を背景に流れるような議論となった。よって、構成メンバーをどうするか、今回は事業会社を入れず金融機関同士で対話する設定だが、設定の変更も視野に入れて工夫が必要。後藤 氏にご登壇いただく際、EA21 だけに特化してはもったいない気がする。
- EA21 は、地域によって温度差がある。当行でも取り組みきれていない。そうした状況も踏まえ、EA21 だけではなく、ご登壇者からの違うお話も取り混ぜたら良いのではないかと。
- (委員長) テーマを EA21 にしたのは、環境マネジメントシステム (EMS) がベースにあった。最近 EMS が変わり、EA21 も ISO 同様、リスクと機会といった ESG に近い切り口が入っている。地域金融機関が中小の地場会社を環境側面も加え評価する時に、ダウンサイドだけではなくアップサイドもみる必要があるという議論ができれば。EA21 という EMS に引きずられるとテクニカルな議論の場とイメージされる可能性もある。打ち出し方はまた考えたい。
- 「ESG テーブル」は自社からも参加希望者が多いと思う。「地方創生テーブル」については、自社内の自治体と協定を結んで地域の課題解決に取り組んでいるチームに参加して欲しいが、EA21 にだけに特化すると手が挙がりづらいかもしれない。後藤 氏からご発言いただけるのであれば、もっと広いところから始め、EA21 に結びつく形だとありがたい。
- 統合報告書は、今年度発行したばかりで関心が高い分野で関心を得やすいと思う。「地方創生テーブル」については、金融機関同士の対話という面も踏まえ、情報開示のあり方や対話のために見る情報の観点から、具体的に落とし込める取組までブレイクダウンできればより良いのではないかと。
- 「地方創生テーブル」は、企業の参加がないのであれば、どこまで具体的なイメージをもてる議論のための工夫が必要。SDGs や ESG は理解していても、具体的な実践に向けては、実際的な事例がないと議論しにくいのではないかと。昨年度の意見交換会では、いずれのテーブルも参加者が多く会場からの声を拾う形にならなかった印象がある。具体的な事例があると、会場全体の議論がしやすいのではないかと。
- (委員長) 後藤 氏と森下氏に、お2人のご経験を背景に地場の事業会社の立ち位置で自由な質疑応答も含め金融機関とやり取りをしていただき、会場にも議論に参加していただきたく。そうすれば大きなシンポジウムからテーブルに分けての意見交換会に変更した意図を叶えられるのではないかと。
- 自分の社内でも地方創生や ESG が社員に浸透していないのが実態。具体的な事例を取り上げ、わかりやすく議論していただくのが良いと思う。
- 「ESG テーブル」だが、「より良い統合報告書」が3月上旬開催というタイミング的にも良い。より具体的な「良いところ」のコメントが出ると良いと思う。
- 二つのテーマともよい。同様のテーマを経団連でも取り上げているので、金融機関なら

ではの内容（投融資の際のネックとなることやポイント等）・具体的な事例を中心に取り上げてはどうか。

- （事務局） GPIF の統合報告書に「良い企業」、「改善した企業」の 2 カテゴリーがある。「改善した企業」にご登壇いただき、どこをどのように改善したのか、その経緯・背景、苦勞した点などを披露していただきながら、事例を発表してもらおう。運用 WG 座長との相談では、企業と金融機関の参加を前提に企画した。
- TCFD そのものを題材として取り上げるのではなく、統合報告＝情報開示を中心に議論できたらと考えている。GPIF が優れた統合報告書を出した。投資家目線と企業の情報発信力がうまくマッチすれば世界が広がるが、まだ始まったばかりで試行錯誤の面がある。企業がどのようなプロセスを経て統合報告書を改善してきたのか、それを投資家がどのような視点で見ているのかを議論したい。読んでもらえる統合報告書にするための悩み、改善のための過程を、企業に話していただきたいし、それが投資家の目線で正解か否か、より正解に近づけるためにどのようなコンテンツやメッセージが必要か深掘りしたい。ただし、投資家と企業の 2 項対立とならないよう有識者にレフリー的な役割をお願いすることを考えている。
- （委員長） 金融機関がメインとした情報開示に関する議論であり、気候変動や環境問題の各論の議論でないことは明確にしたほうが良いかもしれない。
- （事務局） 参加者の範囲については、署名金融機関に加え情報開示整備基盤事業に登録しているうち、企業として登録している 450 社ほどを対象とすることは可能。またご意見をいただきたい。
- ESG のうち E を議論すると気候変動に収れんしがちで、TCFD に集約される気がする。取組をとまなう開示に向けて IR 等も含めて準備している。現時点での目指す統合報告書のレベル感を、あらかじめ共有できれば有益なのではないか。
- （委員長） 様々な論点があることを前提に議論しても、どこかに収れんしてしまうだろう。相談しながら進めたい。
- 「ESG テーブル」は関心が高いテーマ。SDGs を表現に加えればさらに関心を高めることができるのではないか。「地方創生テーブル」は非公開ということで、地域に根差した地方銀行や信用金庫等が提供する事例により関心が高められる。リースに焦点を当てた WG を実施したが、「地方創生テーブル」にリースを絡めた部分を含めても良いかもしれない。
- 「ESG テーブル」については、GPIF の統合報告書発表に対してタイムリーで、バイサイドの立場からするとキャッチーでぜひ聞いてみたい内容となっている。
- いただいたご意見を元に、参加して良かったと思われる意見交換会にしたい。①と②、2 つのテーブルはつながる。「移行リスク」等の話題では、サプライチェーンの枠組みで考えると、投資家と対話する企業が動けば、サプライチェーンも動いて行き、例えば「気候変動」もビジネスのサプライチェーンと捉えると、これ自体が大きな移行リスクとなり間接金融にも大きく影響していく。今回は、別々のテーブルにてそれぞれの枠組みで議論するが、次回以降の 2 つのテーブルのインテグレートの仕事もテーマではないか。ビジネスと環境、人権、ガバナンスということで、ビジネスを通じた議論をしていく。

- (委員長) 2つのテーブル終了後、集まってラップアップ(総括)する際に、今の点をご指摘いただきたい。
- 次回2月22日に開催する地域支援WGのテーマがSDGsだが、非常に関心が高いようである。地方では、市民との会話のツールとしてSDGsが効果的という話もある。地域金融機関を含めた金融機関は、その状況を認識しているだろうか。SDGsの活用方法等をWGで議論する。キーワードとしてSDGsを使えば、日本企業、アフリカやアジア、どこでも話が通じると言われるが、国内も同じ。金融機関と地域、市民、企業との議論の際に使えるテーマだと思う。従来の地域金融機関と環境のみでは、なかなか進まない。EA21で上手くいくなら、既に上手くいっている。切り口を変える等の工夫が必要。

○オブザーバーからの意見

- 昨年度初めて参加。盛況で良い機会だった。リース会社の立場では、「地方創生テーブル」では自治体との関係において、「ESGテーブル」では投資を受ける側として興味がある。投資を受ける側としては、「地方創生テーブル」で自治体とどれだけ共有していくかをアピールすることも必要と思うので、2つのテーブルがつながってくることは重要。
- 「ESGテーブル」ではTCFDや統合報告書というテーマは関心がある。「地方創生テーブル」は、地方開催の預貸リースWGがあっても、自社の地方にいる者も含め参加が困難で、情報共有できる方法があると良いといつも思っていた(ので良い機会)。
- 「ESGテーブル」では、「目的を持った対話」として、PDCAサイクルを回すためにも企業は統合報告書(=開示された情報)に対する投資家からのフィードバックを求めている(統合報告書を不要とする企業上層部の意見もあるらしい)。投資家目線で有効な情報開示のあり方を企業側に伝わるように、終了後、得て持ち帰るものがあるように、テーマや議論の方向等、的を絞ったテーブルだと情報開示整備基盤事業参加の企業にとってもありがたいのではないかと。
- (委員長)「ESGテーブル」は設計次第。統合報告やESGに絡むと、求める情報開示のあり方を投資家として企業に伝えることができる金融機関だが、発行体として非財務情報開示における悩みもある。そうした金融機関の両面にフォーカスして、金融機関同士での議論のニーズもあるのではないかと。

○運営委員長小括

- 「ESGテーブル」では「どんどんやるべし」、ただし間違えると難しい点もあるとのご指摘、「地方創生テーブル」ではEA21のみに焦点を当てるとテクニカルな議論に走る可能性があり、環境側面から中小企業を見てのリスクと機会について有識者に語っていただいていたのご意見をいただいた。「地方創生テーブル」、「ESGテーブル」の両テーブルの議論が接続するとのご意見もあり、両テーブルの議論の後でのラップアップ(総括)では、SDGsといったキーワードも使える。ただSDGsをテーブルのテーマに据えるか、有識者等に上手く使っていただくかは、いただいたご意見を踏まえてプログラム内容や集客のために工夫をしたい。

(来年度予算案について)

○事務局より資料 3-2 に沿って説明

○委員からの意見

- (委員長) 今年度は自走化、会費制に移行しての初年度。当初、最低限の支出で積算して会費金額を出したが、決算を行った上で、会費収入が十分だったのか、環境省の支援があって成り立ったのかを明らかにしないと、現時点では予算案を立てるのは困難な反面、当初の署名金融機関が負担すると想定していた作業、会場費等の支出もあったようである。
- そもそも定時総会で次年度予算案を示す必要があるのか？一度も決算をしていないのに、繰越金額も明確でない状態でも出されても、これだけ出すのは唐突感がある。収支が第1回運営委員会で承認されるのであれば、予算案もその時だとより具体的。
- (事務局) 予算承認は、総会の決議事項に入れている。今回の総会で次年度の予算を決議するかどうか議論していただきたい。次年度の会費徴収を前提に、必要と仮定した総会会場費も含めたのが今回の叩き台。収支報告と総会のタイミングのズレもある。通常、3月末に収支が終わり株主総会等は6月頃だが、その時期に毎年臨時総会をメールベースで行うのも難しいかもしれない。総会議案に関わる規程の改訂の可能性も踏まえ、第1回運営委員会での監査報告を経て、メールにて署名金融機関による収支報告の承認を諮る。同時に、予算案も諮るとしたら返信が必要で手続き上、煩雑になる。
- (委員長) 決算を終えておらず繰越金も詳らかでない状態での予算案には無理がある。今回は初回なので、コストはかかるが、決算後、返信を前提とした予算案の議決を行ってはどうか。
- 支払う立場からは、仮に決算が締まっていなくても3万円の会費の使途を示す必要があるのではないかと。予算の収入と支出がぎりぎりになっているが、バッファがないと、不測の事態に対応できないのではないかと(赤字はあり得ない)。
- (事務局) 議決を通すかどうかは別として、次年度の予算案を示したほうがいいのではないかと。
- (委員長) 最終的に議案となるかは別として、収入(会費徴収)と支出の概算を示し予算の方向性を定時総会で示す。運営委員会を経て、締まった決算に関してあらためて後日、決議するという事ではどうか。
- 支出にある人件費等はフォーラム(事務局委託先)に支払うものか。支出先等が不明瞭。
- (事務局) WEBサイトに関しては、外注。会場費も他の業者に支払うもの。人件費と一般管理費がフォーラムに支払われるもの。会費を議決した臨時総会での資料があったが、人件費もブレイクダウンして人日で積算していく。
- (委員長) 監査も入るわけだし、概算だとしても算出基礎となる資料がしっかりあり、それを前提とした予算案であれば説明力があると思う。今はそれが無い状態なので、納得しづらいものになっているのではないかと。
- (事務局) もちろん外注や会場費は見積、人件費に関しても単価と必要時間数等の詳細

を資料として用意する。

○運営委員長小括

- 決議事項とはせず、今回のご意見を前提として、定時総会では概算を示す方向で進めた。

4. 事務局からの報告について

(署名金融機関の状況及び H29 年度会費徴収について)

○事務局より資料 4-1 に沿って説明

○運営委員長小括

- 未徴収機関への対応を事務局にお願いする。

(ウェブサイト新設について)

○事務局より資料 4-2 に沿って説明(投射資料、資料 2、参考資料 3 参照)

- (事務局：補足) 事例集は、まだできていないがデータベースとなる予定。
- (事務局：補足) リンクに関しては、JSIF、Sustainable Japan、QUICK ESG 研究所には、了承を得ている。全国信用金庫協会、日本証券業協会、日本投資顧問業協会、日本損害保険協会からは、正式に承諾を賜っているのでロゴを掲載。UNEP FI は、本部に問い合わせ中。環境省は、現在手続きを開始したところ。金融庁とは、今後連携。他にも審議している機関もあり必要な書類を準備中。皆様からのアイデア、ご支援もお願いしたい。
- (事務局：補足) 今後、インタビュー記事等のコンテンツを増やしていきたい。
- (委員長) 有志の運営委員機関にもご協力いただいている。引き続き、アイデア等、ご協力いただきたい。
- 現環境省ウェブサイト内の金融行動原則のサイトは、いつ頃閉鎖となるのか。リンクを貼っている署名金融機関も多いと思う。リンク切れにならないよう、移行には配慮が必要。
- (事務局) 環境省と相談しながら、新ウェブサイトに誘導するような対応をとりたい。

○運営委員長小括

- 環境省ウェブサイト内に設けられている金融行動原則のウェブサイトへのリンクを張っている署名機関も多いと思うので、ある程度の期間を設けて周知をはかる。

5. 今後の運営について

○事務局より資料5に沿って説明

(運営委員会の会場の提供)

○委員からの意見

- (委員長) 早めにスケジュールを決めておけば、会場も確保できるのではないか。
- 年度計画の中で日程を定めれば、スムーズに行くのではないか。自分の会社では基本、会場の予約は早い者勝ち。四半期ごとの日程を定めて欲しい。
- 自社も、年度初めに重要会議に会議室を押さえられるので、年間計画で日程が定められれば、それを踏まえ押さえにかかるとは可能。
- (委員長) 年度初めに計画を立てて、東京に所在する運営委員機関・署名金融機関中心で持ち回りとしてはどうか。
- 持ち回りで順番が決まると、会場が確保できない可能性がある。東京に所在する機関に手を挙げていただき調整、会場を提供できない機関は次回…とゆるやかな持ち回りが良いと思う。
- (事務局) 第1回運営委員会は、例年5月の大体第3週目に行っている。早めに5月第3週とか第4週とか日をお伝えすれば良いか。
- 5月第3週目は決算期ではないか。自分の会社は13～15日が決算で会議室も取りづらかったりする。
- (委員長) どこも同じであろう。集中しない形で調整ということで良いか。
- (事務局) 年度初めにどのタイミングで周知すれば良いか。
- (委員長) 5月、6月ならばいまから押さえないといけないタイミングかもしれない。
- (事務局) 早めに5月2～3日間を候補に挙げてアナウンスする。
- (委員長) 必要な会場の規模感と併せて早めにアナウンスして欲しい。

○運営委員長小括

- 年度初めに計画を立てて東京にある運営委員機関・署名機関の中で調整しながらゆるやかな持ち回りとする。
- 次年度の第1回については5月ごろ開催ということで早急に調整をする。

(WEBサイトの運営)

○委員からの意見

- 外への情報開示になるので、環境省のサポート、精査するメンバーが必要となるのではないか。そこで運営委員長という委員長の負担が増えるので、委任できる機関を決める必要があるのではないか。
- (環境省) 環境省は、情報開示について制限を設けるという立場ではなく、むしろ署名機関側の金融機関としての制限のほうが大きいのではないか。自由に議論していただく中、

こういう情報を発信してはどうかと提言させていただくことはあると思う。

- (委員長) WG の報告が増えてくるイメージであれば、各 WG でチェックして開示していくほうが現実的ではないか。
- (事務局) 今までのように事務的に行うのであれば、WG であれば WG 座長にご確認いただければ問題ないのではないか。新しいコンテンツの原稿チェックは必要。チェック機能がガチガチだとタイムリーな情報発信ができない恐れも。情報開示にセンシティブになるような内容はあまりないのではないか。
- ウェブサイトを通じての情報開示は金融行動原則全体にとって重要な事項であるので、ウェブサイト運営チームを運営委員会の下部組織として作る必要があるのではないか。すべての情報が集まるプラットフォームでなければ、ウェブサイトの価値がなくなるので、単なる WG 活動報告だけでは不十分。
- 会費を払う署名金融機関のうち、地方の署名機関にとっては情報を得るためにはウェブサイトは重要なもの。ただし、地方の金融機関としては運営チームに入ると上京が大変なのでご配慮いただけるとありがたい。
- (事務局) 地域の金融機関の視点はとても重要。運営チームの募集の際に、地域金融機関も募ってはどうかと思う (必ずしも上京の必要はない)。
- 運営チームは、タスクを明確にしておく必要がある。具体的な中身についての意見を募る。毎回の会議に上京する必要がないことはあらかじめ明確にして、地域金融機関にもご参加いただけるようにしたほうが良い。

○運営委員長小括

- ワーキング (運営チーム) を作る方向で進めたい。チームのヘッドは、金井司氏にお願いし、全署名金融機関に声をかけることにする。

閉会

○環境省 奥山環境経済課長より挨拶

- 環境省では、金融業界のトップへの意識啓発として現在 ESG 金融懇談会を実施しており、実務レベルの情報場として機能している金融行動原則と合わせて、環境金融を広める起爆剤として連携していきたい。

○環境省 田辺補佐より挨拶

- 下支えの取り組みを引き続き環境省は継続し、海外の機関との連携など行う。
- 会費を払って良かったといってもらえる総会としたい。

○竹ヶ原運営委員長より、閉会挨拶

- 本日の参加者への御礼と、閉会の挨拶をもって終了。

(以上)